

姫路顕栄教会

# エピファニー・タイムス

【住所】〒671-1152 姫路市広畑区小松町4-36

編集責任者 牧師・司祭 ミカエル小南 晃

## 被 献 日

～聖母マリアのお清めの日～

モーセの律法に定められた彼らの清めの期間が過ぎたとき、両親はその子を主に献げるため、エルサレムに連れて行った。

(ルカによる福音書第2章22節)

教会暦において2月2日は「被献日」と呼ばれる祝日です。この祝日は旧約聖書の規定に従い、幼子イエスが神殿で神に献げられたことを覚えるものです。

冒頭の聖句に続いて「それは主の律法に、『初めて生まれる男子は皆、主のために聖別される』と書いてあるからである。(ルカ2:23)」と説明されていますが、これは出エジプト記13:11以下などに出エジプトの際に全ての初子が撃たれるなか、イスラエル人の初子は小羊の犠牲によって死を免れたことを覚えながら、初子に代えて犠牲を神に捧げることが記されているものです。

そしてこの出来事の内には、やがてイエスが十字架にかけられ、人類の罪の贖いのための犠牲として献げられることも暗示されています。

また同時にこの日は、母マリアの清めを覚える日でもありました。「モーセの律法に定められた彼らの清めの期間が過ぎたとき」

とは、レビ記12章1節以下にその規定が記されていますが、産婦は男児を出産後、清めの期間として計40日間が必要されました。降誕日12月25日からこれらの期間が過ぎた日が2月2日ということです。

レビ記の規定によれば、婦人はこの期間が完了するまで聖所に詣でたりしてはならないとされていました。しかしこの出産を汚れとする観念は今では問題があり、女性差別の温床ともなるものです。

しかし当時にあっては母体の保護と回復のための期間の意味もあったのかも知れません。教会では幼子の誕生を祝うと共に、出産後、健康を回復して教会生活に復帰出来ることを感謝して「誕生感謝の祈り」を行います。



今、少子化の問題が深刻になっています。女性が安心して子供を産み、育てられる環境が整わない限り、日本の社会の未来が危ぶま

れています。少子化の問題に対しては教会としても何か出来ることを考えていくことが大事なのではないでしょうか。

そうした中で、今信徒や幼稚園教職員に何人かの妊産婦の方々がおられることは喜ばしい限りです。それぞれ健やかに喜びの時を迎えることができますようにお祈りして参りたいと思います。そして「誕生感謝の祈り」にてお会いしてご出産を共に喜ぶ機会が与えられましたら嬉しく思います。